

## 総務常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年10月11日（火）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和4年10月11日（火）午前11時57分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員  
3番 安藤 利博君      6番 佐藤 武君      9番 保田 守君  
10番 大口 浩志君    14番 松田 勲君    17番 下山 哲司君
- 5 欠席委員  
な し
- 6 説明のために出席した者  
総務部長 入矢五和夫君      財務部長 戸川 邦彦君  
消防長 井元 官史君      秘書広報課長 小引 千賀君  
政策推進課長 山崎 和枝君    総務課長 花谷 晋一君  
くらし安全課長 岡本 和典君      財政課長 原田 幸子君  
管財課長 大窄 暢毅君      税務課長 光田 尚人君  
消防総務課長兼  
通信指令室長 檜原 秀幸君
- 7 事務局職員出席者  
議会事務局長 土井 常男君      主 任 平尾 和也君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について  
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（佐藤 武君） それでは、皆さんおはようございます。

ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

本日は、閉会中の委員会ですので、市長、副市長、支所長には出席を求めておりませんので、御了承をお願いいたします。

また、換気のため、会議室の出入口については開いたまま進めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

総合政策部長が体調不良で今日はお休みですので、併せて御了承をお願いいたします。

それでは、これから協議事項に入ります。

1 番目、事業の進捗状況について、執行部から説明をお願いいたします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 総合政策部資料を御用意いただければと思います。

1 ページ開いていただきまして、2 件ございます。事業の進捗状況についてでございます。

(1) 公共交通に関するアンケート調査の実施についてでございます。

1 といたしまして、アンケート調査を行う目的でございますが、令和6年度から、新しい赤磐市地域公共交通計画の策定に向けまして、市の公共交通の現状と課題を把握し、今後の利便性の高い持続可能な公共交通網を作成するための基礎資料とするために、このたび市民向けのアンケート調査を実施するものでございます。

2 として、調査のスケジュールにつきましては、10月中旬から調査票の配布を郵送で行います。10月31日月曜日を回答期限としております。11月から集計作業を行い、分析等を行い、その結果が出ましたら、1月頃になろうかと思いますが、本委員会や公共交通会議において報告させていただく予定としております。

3 といたしまして、配布対象者につきましては、赤磐市の世帯主を対象に無作為で抽出を行い、3,500世帯に郵送し、世帯員の中で高校生以上の方に回答をお願いするようにしております。

4 といたしまして、回答方法につきましては、これまでは郵送でお返しいただくということを主流としておりましたが、インターネットでの回答も今回導入させていただいております。

続きまして、(2)でございます。

広域路線バス、赤磐・和気線の見直しについてでございます。

赤磐・和気線につきましては、片上鉄道の廃線を受けまして、民間バスの運行料金からスタートしておりまして、現在に至っております。ですが、市内で運行しております他の路線等々と比べましても、割高となっている状況でございます。

そこで、本年度末におきまして、運行契約の更新を行う予定です。それに併せ運行料金の見

直しを行い、あわせて停留所及びダイヤの見直しを若干行わせていただき、利用促進を図っていきたいと考えております。

1といたしまして、料金でございます。区間料金の比較を一覧表に出させていただいております。例えば、周匝上から塩田出張所までは、変更前料金は230円でしたが、新しい料金といたしましては150円、苦木上から和気駅前は、変更前は550円でしたところを、新料金といたしまして200円、それから周匝上から和気駅前、路線の始発から終点まででございますが、これまでは770円だったところを350円に変更をさせていただきたいと考えております。

それから、この路線につきましては、定期券を導入させていただいております、通学それから通勤の2種類ございますが、ここでは参考といたしまして、通学定期券での比較を載せさせていただいております。一覧表にございますとおり、例えば新料金で150円区間につきましては1か月が1,800円、変更前は8,280円、3か月定期券でございますと新料金は4,950円、変更前は2万3,600円、6か月定期券につきましては新料金は9,000円、変更前は4万4,710円でございます。200円区間の新定期料金につきましては、和気町営バス、赤磐市民バスの料金と同一料金とさせていただきたいと考えております。

2ページでございます。

2といたしまして、停留所の変更を少しさせていただこうと思っております。

現在、周匝から始発になっておりますけれども、周匝上に始発を変更させていただこうと考えております。

それから、塩田、塩田下を廃止いたしまして、和気町営バスの停留所が同じところにあるんですが、塩田コミュニティハウス、塩田出張所に変更をさせていただきます。これによりまして、和気町営バスとの接続がしやすくなるというメリットがございます。

それから、杖谷を廃止させていただこうと思っております。杖谷につきましては、もうこちらの地区自体が移転をされているということで、利用状況もないということですので、ここは廃止をさせていただこうと考えております。

それから、早朝便のみ、佐伯庁舎を追加して、国道矢田から佐伯庁舎へ延伸を考えております。これをさせていただくことによりまして、佐伯庁舎に隣接している佐伯老人福祉センターから熊山駅へ向かう和気町営バスがございますが、そちらに接続させることが可能になり、高校生の方の通学を支えられるというふうに考えております。

3、ダイヤでございます。

先ほど申し上げましたが、早朝便の追加それから折り返し便の追加ということで、周匝上から塩田出張所で折り返し運行を検討しております。塩田地域の方が周匝周辺にお買物や通院が可能になるというふうに考えております。また、和気町営バス奥塩田・苦木線へ乗り換えて、和気駅方面へ移動することができるということでございます。

変更年月日につきましては、令和5年4月1日を検討しております。

今後、関係する例規もございますので、そちらの例規改正も行ってまいりたいと考えております。

なお、こちらは、和気町との共同運行ということでございまして、和気町でも協議をこれからしていくということですので、その協議が調いましたら、関係例規の変更等を進めてまいりたいと考えております。

総合政策部からは以上でございます。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、総務部資料の1ページを御覧ください。

新型コロナ対策衛生用品配布事業についてでございます。

先般の議会で補正予算の議決をいただきましたので、マスク、アルコール消毒液の配布、それから抗原検査キットの配布、この事業に着手をしたいと思っております。現在、物品、配布物の調達を行っており、また抗原検査キットについては薬局での配布、それから宅配での配布も考えておりますので、各事業所と契約に向けて協議を行っているところでございます。

なお、予算常任委員会等におきまして、マスク、アルコール消毒液について、配布場所は従来の本庁、支所、出張所ということで考えておりますが、なかなかそこまで取りに行けない方への対策ということで御意見ございましたので、前回もそうだったんですが、地域の区長、町内会長さんあるいは民生委員さん、地区の役員さん、そういった方が、例えばその御近所でどうしても取りに来られないんだというようなことをお申し出になられましたら、その方の分は会長さんなどの責任において渡していただくということでお持ち帰りいただいておりますので、今回も同じような対応を取らせていただきたいと思いますと思っております。

それから、抗原検査キットの宅配について、いわゆる下請に入られる個人業者への対応ということで、これも御意見ございましたが、こちらは原則としては受注者と下請業者さんの契約上の話になりますので、なかなかそこに制約を設けるということは市としては難しいかなと思っておりますが、決まった宅配業者には、そういった事情があるのであれば、なるべくいわゆる零細企業を苦しめるといふか、そういうことのないように御配慮をお願いしますというようなことは、打合せ、協議の中でお話させていただこうというふうに考えております。

以上です。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） それでは引き続きまして、管財課から御説明させていただきます。

ここで、説明の前に1か所資料の訂正をお願いしたいと思います。

財務部資料でございます。資料2ページの表の左側の評価項目、こちらの一番上のところ、

企業の施工実績というものがあります。こちらの右側の括弧書き、「5億1,400万円以上」とありますが、「5億6,200万円以上」、「514,000」を「562,000」と修正をお願いいたします。失礼しまして申し訳ございませんでした。

それでは、改めまして財務部資料1ページをお願いいたします。

赤磐市役所本庁舎等改修工事につきまして、前回の当委員会で総合評価一般競争入札の開札状況、本件が低入札価格調査に該当するため、落札者の決定が保留となっている旨を御報告させていただきました。

本開札後、低入札価格調査を行い、去る9月30日に株式会社荒木組を落札者として決定いたしました。これに伴い、10月4日に契約金額15億150万円で本工事請負の仮契約を締結しております。

なお、この契約につきましては、地方自治法及び市の条例により、議会の議決に付すべきものとなっておりますので、議案上程の際にはよろしくをお願いいたします。

それでは、このたびの総合評価一般競争入札の結果につきまして、もう少し詳しく御説明させていただきます。

総合評価一般競争入札につきましては、価格面だけでなく、価格以外の要素、いわゆる品質の確保にも重点を置きまして、資料の2ページの表の左側にありますとおり、この工事であれば企業の施工実績、配置予定技術者の能力、企業の体制、地域貢献、施工計画、こういったものを評点化し、総合的に落札者を決定することとしております。

この表のとおり、今回の入札の場合、3者の参加があり、各評価項目について、事前に提出された技術資料等に基づき、加算点20点満点でございますが、こちらを計上し、基準点100点にこの加算点を加えた数値を入札価格で除して得た評価値、これが一番高い株式会社荒木組が落札者となったものでございます。

次に、この結果に至りました開札後に実施した低入札価格調査の説明をさせていただきます。

委員の皆様も御存じのとおり、低入札価格調査の実施、それから最低制限価格の設定につきましては、不適格業者の受注や不良工事の防止など、公共工事の品質確保を目的として実施されるものでございます。総合評価方式の場合は、低入札価格調査の実施が法の規定により適用されることとなっております。本市の場合、低入札価格調査につきましては、赤磐市建設工事入札に係る低入札価格調査実施要綱を定めておりまして、実際の調査についてはこれに基づき実施いたしました。

表の2ページの下から4行目の入札価格の行を御覧ください。

左側に参考として示しております予定価格が15億3,070万円に対しまして、予定価格の88.02%を乗じた額が失格の基準額となりまして、これを下回る応札についてはそもそも失格でございます。また、予定価格の90%の金額が本件の低入札価格調査の基準価格となっております。

まして、予定価格の88.02%から90%の間の価格での応札が低入札価格調査対象となります。いわゆるこの価格帯が最低制限価格制度における最低制限価格の基準ラインの範囲と置き換えでお考えいただければ、分かりやすいかなと思っております。

よって、1番の株式会社荒木組及び2番の株式会社三幸工務店がこの対象範囲での応札となりますが、本市の低入札価格調査実施要綱の規定によりまして、最高評価得点者の株式会社荒木組にまず調査を行いました。

株式会社荒木組からは、先ほども説明させていただきました低入札価格調査、以下10種類の別記様式それから工事の内訳書の提出を受けまして、また直接の聞き取り調査も併せて実施しまして、設計の詳細などを慎重かつ厳正に審査したところ、直接的な工事経費については十分確保されていること等が確認できましたので、結果、本応札をもって当該工事は適正に施工できるものと判断したものでございます。

なお、3ページには、国土交通省が発行しております地方公共団体向け総合評価実施マニュアルの抜粋によりまして、総合評価方式の考え方を改めてお示ししております。御参考にしていただければと思います。

加えまして、資料にはございませんが、準備工事等の現在の状況でございます。

委員の皆様にもお世話になりました仮執務室の移転に関しまして、内部移転も含め、9月20日に無事完了し、現在各所で業務を行っております。今後、早急に契約を締結し、安全かつ確実また円滑に工事を進めてまいりたいと考えておりますので、引き続き市民の皆様にも何かと御不便、御迷惑をおかけすることとなりますが、よろしく願いいたしたいと考えております。

管財課からは以上でございます。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 事業の進捗状況についてでございます。

消防本部資料をお願いいたします。

各地区消防施設事業の進捗状況について御報告いたします。

1ページを御覧ください。

消防自動車補助事業は、坂辺地区の1地区のみの整備となります。電子部品の不足により納車が遅れることが予想されますが、令和5年2月中の納車となっております。

次に、防火水槽新設事業でございます。

2ページを御覧ください。

実施地区は西軽部地区で、コミュニティハウス新設に伴う開発行為により周囲に有効な水利が不足していたため、地区からの要望により新設したものでございます。8月31日に水槽は完成しており、現在、水槽内には40トンの水が満水の状況でございます。この後、写真左奥にコ

コミュニティハウスが建設される予定となっております。

次に、防火水槽修繕事業でございます。

実施地区は由津里地区で、無蓋の防火水槽に雨水や泥水が流入し、堆積物で水量不足になったことと、水槽の周りのコンクリート劣化により破損が多数見受けられたため、地区からの要望により修繕を実施したものです。

続きまして、消防機庫修繕事業でございます。

3 ページを御覧ください。

実施地区は、東軽部地区でございます。陸屋根のコンクリート劣化により雨漏りが発生したため、防水工事を実施したものです。同時に、壁面のブロックの表面が劣化していたため、保護塗装を実施しております。

続きまして、各地区標準消防用機械器具整備事業でございます。

山陽地区からは7地区、消火器、ホース、筒先、消火栓ハンドル等、赤坂地区からは4地区、ホースやホース格納箱等の要望がございました。熊山地区は8地区から消火器、筒先、ホース等、吉井地区からはこの、携行缶、救急セット、ホース等、締めて合計487万360円の要望がありました。機械器具の整備につきましては、要望地区の各部に納品が終わっております。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

それぞれ事業の進捗状況について説明していただきました。

これらについて委員の皆さんから質問があればお願いいたします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） バスの件でお尋ねします。

先ほどのまずアンケートの件ですが、3,500世帯、世帯主宛てに送るようなことをおっしゃられとったんですけども、ここへ対象が高校生以上ということで、高校生の意見というか、思いを聞きたいということであれば、世帯主の名前で送ったら目に触れる機会が限りなくゼロに近いのかなと思うので、世帯主ということではなくて、その人宛てに送ったほうがより意味のあるアンケートにならないかなというのが1点と、それからその後にバスの料金と時刻の見直しがあるんですけど、これが一応、予定が令和5年4月1日ということになるのであれば、先ほども御説明の中にもありましたように、特に吉井中学校の子供たちへの告知を極端に言えば議会より先にやっとならなくてもいいぐらいではなかろうかなと、まだ確定じゃないので言えませんということかもしれませんが、これからちょうど進学先の最終確定になる時期だと思われるので、その辺に対する配慮はいかがでしょうか。2点、お願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、アンケート調査の配布の仕方ということで御意見をい

いただきました。

お答えいただく対象として高校生以上とさせていただいておりますが、今のところ世帯主にお送りさせていただき、一応3部同封させていただいて、当然お一人の方もおられれば4人以上おられる世帯もあろうかと思いますが、その世帯の中で最高3部、4人以上お答えいただくという意欲のある方はウェブなどを活用していただくということを想定しております、今回は個別に一人一人というふうな宛てにはさせていただいていないところではありますが、ダイレクトに高校生の声を聞きたいというようなところをいくのであれば、おっしゃられるように、個別に名指しでお送りすることも考えていかないといけないかなとは思っておりますが、今回3,500世帯にということでお送りする予定ですので、御了承、御理解いただければと思います。

それから続きまして、広域路線バスの見直しということで、大変ありがたい御提案をいただきました。

今のところ、公共交通会議をそれぞれの地域でもさせていただきます。それから、議会にも御報告させていただいてから、中学校とかに御案内をさせていただこうとは思っていたところではございます。実際、料金が高いというような御相談も我々も受けておりますし、和気町でも受けておりますので、高校生の保護者の方の支援につながると思っておりますし、選択肢の幅を広げる一つのきっかけになろうかと思っておりますので、できれば早めに中学校にお声がけができるように準備を進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員、よろしいか。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） アンケートは要するにどうにもならんという回答だったようですが、実際にアンケートは悪いとは言いませんし、予算が通つとる話で、そのときにもう少し細かく言っとけばよろしかったんかもしれないですけど、例えば高校生とかでしたら、ある面、高校生の期間、御存じのように3年間、アンケートを取って物事が動くまでにウン年間、果たしていいのかなとか。さっきも言いましたけど、高校生もそうですし、例えば吉井中学校の子供たちにまず興味があるない、公共交通について、ということもありましょうし、学校に協力していただくというようなこともあってもいいのかなと。

それと、今、早急にというような言い方を、御連絡をとってられましたけど、学校側とも連絡を取っていただいて、まだ進路決定に、できれば、前向きな情報だと思うので、その辺で何となくの匂わせぐらいは学校側へも流しといていただけたら、最終的にはゼロベースかもしれないんですけど、情報提供的にはまだ不確実ですけどというようなことで、極端に言えば今日にでも正式なものではなくてもやっていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。



○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） アンケートは、おっしゃられるとおり、高校生になると期間限定ということもありますが、本年度、紙ベース、ウェブということではあるんですけども、個別に聞く機会は、来年度に計画を策定するということですので、聞ける機会はあるかと思っておりますので、検討させていただきたいと思っております。

それから、広域路線バスは、今日にでもおっしゃっていただいたので、なるべく早く、和気町との調整もありますので、そこだけは調整させていただいて、早めに御案内をさせていただこうと思っております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ほかにございますか。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 今に関連してですけど、料金が安くなるのは非常に喜ばれると思うんですけど、参考までにですけど、和気線についての収入、昨年度の実績が幾らで、この改定をした場合どのくらいになるか、そのあたりを教えてくださいのと、それから定期券ですけど、これは大体往復6日分ぐらいになっていると思うんですけど、これはほかの地域、例えば、いつからだったか、定期券を導入しましたけど、その辺の割引率といいますか、それは大体同じレベルなんでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、経費の見込みということでございます。

まずは参考までに実績ということでございまして、令和3年度は、まず歳入の運賃収入ですけど、こちらが130万円程度でございます。あと、歳出といたしましては、運行委託等々で670万円程度でございます。あと、歳入は、和気町と共同で運行させていただいておりますので、先ほどの運行委託料等々を差引いた金額を案分させていただいておりますので、和気町からいただいているのが280万円程度ということになります。昨年度につきましては、さらにその後差引いた金額を過疎債を活用させていただいたということで、ほとんど、公費の負担が少なかったという状況ではございます。

料金を下げることによってどれだけ費用負担が増えるかということでございまして、歳入につきましてはほぼほぼ半額にさせていただきますので、130万円実績に対して65万円程度になるかなと思っております。

それから、歳出につきましては、今回少し運行距離を延伸したりというような見直しもかけさせていただくことありまして、これから業者を決定していくことあります。9月議会の

ときに債務負担行為を出させていただいておりますので、その上限を考えた場合、実際入札で落ちる可能性もあるんですけど、それを加味させていただきますと、マックス300万円程度の経費が増になるかなと思っております。

過疎債はいろんな事業、年々によって充てられる事業が異なっておりますので、過疎債のことは置いておきまして、それらの経費を計算させていただいた結果としては、いわゆる運賃収入が下がる金額と、あとは運行経費が上がることを見込みまして、それぞれで最終的に案分する金額が180万円程度は上がってくるかなというふうには試算しております。

ですが、運賃収入を下げることによりまして、普通に買物をされる方、通院される方が、今まではちょっと高かったのが週に1回というところが週に2回お使いいただけるとか、先ほど少し触れたんですけども、周匝にお買物に来やすくするようなダイヤの設定もさせていただいたりしておりますので、利便性は上がるので、半額よりはもう少し運賃収入も上がってくることを期待しております。

あと、定期券ということですが、今回設定させていただいた定期券につきましては、赤磐市内もそうですし、和気町でも町内は200円、市内は200円で設定させていただいている金額をベースに考えさせていただいておりますので、大体同じぐらいのレベルを保っているかとは考えております。

ですが一方で、赤磐・美作線につきましては、宇野バスがずっと走っておられるところの走らない間を行かせていただいておりますので、そちらは定期の設定はそもそも市ではしていないということですので、いわゆる赤磐市内、和気町内を走っている便とはほぼ同等の金額設定にさせていただいているということでございます。

すいません、長くなりましたが、以上です。

○委員長（佐藤 武君） いいですか。

○副委員長（安藤利博君） はい。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 広域路線バスの和気線の方は、和気町の交通体系が変わったときにも変わるかと思うけど変わらなくて、今の対応なんかな、これは。

○政策推進課長（山崎和枝君） そうです。

○委員（下山哲司君） ちょっと遅いというか、共同でやりようするときにはそれなりに速やかにするように心がけにやいけんのじゃねえかと思ったら、今日出てきたんじゃないけど、もう大分になるからな、和気がやってから。だから、そういう部分ではちょっと遅いという感じを受けるのと、それから一部、公共交通に関するアンケートじゃけど、これは市全体の話じゃろ。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい。

○委員（下山哲司君） 吉井の話しかしょうらなだけで。じゃから、その辺が、吉井を対象にというような話にはならないので、吉井は吉井で使われる人の意見を聞かにやあ何にもならん

ので、アンケートを取って、それに合わせてするというような話じゃあ全くおかしな話になってくるじゃない。その辺がどうも伝わってこんのじゃけど、その辺について答弁お願いしたいと思います。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、アンケートは、委員おっしゃられるように、全域のアンケートになりますので、吉井の地域だけという話ではないので、これは全体でございます。アンケートは全体的なことを皆さんに同じように聞かせていただくんですけども、当然その地域地域で思われてることも、個人でも違ったりしますので、それは区長さんとか町内会長さんとかとお話をさせていただいたり、8月でしたか、乗り方教室なんかも今回は桜が丘東でさせていただいたりはしたんですが、そういったこともそれぞれの地域でさせていただくときにいろんな意見も聞かせていただきたいなと思っておりますし、次の公共交通計画については、当然皆様方、市民の方の意見を反映するだけでなく、いろんな移動手段なんかも活用していくということで、これまでの計画と若干位置づけが、内容が変わってきたりすることもありますので、市がどういうふうに公共交通を考えていくのかというようなことも盛り込んで計画を策定していくと、それで地域の方々の意見も反映していくという形で考えております。

それから、広域路線バスについては、大変後ればせで恐縮ですけども、今回全面的にどうか、見直しはさせていただくということで、また和気町ともいろいろと協議を重ねていきながら、不都合があれば、随時見直しをかけていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） このアンケートについては、こういうやつで3,500世帯ほどやってみても的を射ない。じゃから、一番問題なのは、町内会長さん、区長さんに地元の意見を聞いてもろうて、それを細かくしたほうが、これはアンケートをしてみたって、1万8,000世帯の3,500世帯で、ほんなら何が的になるのかということにならん話で、そういうことよりは町内会長さん、区長さんと親密にそういう連携を取ってやるほうがベストじゃと思うんですが、その点についてどう思われますか、先ほど言われたのは言われたんじゃけど。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 地元の自治連の区長さんとかにはなりますけれども、公共交通会議という会議も設けさせていただいておりまして、そちらにいろいろと地域から吸い上げた意見なんかもお伝えいただいているような状況もありますので、もちろんそれだけで全てが聞けるかということではないかとは思いますが、そういう場でも御意見を地域の方からもいただいておりますし、また個別に区長さんとかにもヒアリングなんかはやっていければいいかなというふうには考えております。

確かに配った内容がぼやける可能性もあるんですが、と言いながらも、統計的な面からもあ

る程度の数を拾って傾向なんかも見させていただきたいというところもありますので、アンケート調査に頼るわけではないので、そちらと地元の生の意見なども併せて吸い上げていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） こういうのに力を注ぐよりは、専属の職員さんを1人つくって、それですと調査して回って、する人が本当に現場が分かるような調査の方法のほうが現実味があると思うんですが、どう思われますか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） おっしゃるとおり、専従ですと声を聞いて回るっていうほうが確かに早い可能性はあります。ですが、今の人員ですと、なかなかそこまでいうところができかねるところではあります。

違う話をさせていただければ、話が広がって申し訳ないかもしれないんですが、移住コンシェルジュという者もおりまして、そういうような者が地域に出向いていろいろとお話を聞いていく中で、こういうような公共交通とか移動についてのお困り事なんかも聞いてきているような状況もありますので、そういったものも活用しながら、地域の人が一体どういうふうな、移動について思われてるかっていうのを酌み取っていきたいというふうには考えております。

下山委員おっしゃられるように、専従で日に2軒ぐらい行ったほうが早いんじゃないかというお話は確かにあるかと思いますが、今回は網羅的にさせていただければというふうに考えております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） これを見たら、何かやらにゃいけんからやりようようにしか思えんので、実質的にほんなら反映できるかというて、これが反映できるとは思えんし、無駄なことよりは現実的なことのほうに力を注ぐほうが価値があるんじゃないかと思う。

というんが、吉井地域だったら、仮に中学生の子供がおったら、家で今度はどこの高校へ行くかと決めた時点に、両親、おじいさん、おばあさんそれから親族が送り迎えをするのに決めるわけです。じゃから、こんなアンケートを取るよりは、実際に現実に中学生で、今度高校へ行く人の意見を何か聞くほうが簡単で早いし、現実味があるんじゃけど、そういうことが今までできてないような気がするんよ。

僕らが、柵原とかでも、どこともでも、今まで注文をつけて、結構よう柵原もしてくれたりしてきとんじゃけど、その辺は、星のふる里バスでも周匝まで来てくれ出したから乗る人が多い。前は全部うちの家の前は通って柵原まで出ていきよったんじゃけど、今は便利になってよ

うなっとなると喜んでくださりよんで、現実的な、少し伸ばしただけで価値がある。

今の現実がそんなぱつと変えられるんじゃないから、ここをこう改善したらよくなるんじゃないとか、そういうことが担当者が分かるような調査をせんと、ペーパーでもろうて、大まかに、こういうことかというんじゃないあ何にもならんと僕は思うとんで、和気のも一緒に、もういつやるのかなと思よったら、今になって、もう何年にもなるんじゃないけど、和気はやってから。じゃから、いつやるのかなと思うて、そのままいくかと思うたら出てきたから、ここでやるんじゃないかと思うて今日資料を見たんじゃないけど、和気との絡みがあるから口を出さなんだんじゃないけど、実際にそういうところも、和気が料金がこうじゃし、吉井から乗る者も料金が違うというようなことにも変えにやいけんし、それから利便性が、和気は細かくやったもんじゃから、今度は、今の吉井からの分との連携がうまくいきょうらなんだというのは聞いてるし、じゃからその辺が、何年もたってそうなるのかなと思うて今日これを見たんじゃないけど、僕だったらすぐやっとなるけど、僕が担当なら。

安藤委員が言われる、料金の問題じゃないんじゃない。やるかやらんかの問題なんで、大事な。じゃから、お金が高えからやれるじゃ、そういうことには過疎地域はならんので、国の政策があるわけじゃから、それにうまくどういふふうに当てはめてどういふ運営をやるかというのは役所の能力の問題じゃから、そういうふうな物の考え方をしてほしいなというふうに思います。今日はこんくらいでやめますけど。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） 続けて、山崎課長に申し訳ないんですけど、簡単に言うてもらったらいいと思うんですけど、アンケートですよね。これはいいとは僕は思うんです。いろんなやり方でニーズをしっかりと聞いていただいて、それを参考にされればいいとは思うんです。

1つ聞きたいのは、ウェブ回答というのは、これはQRコードか何かで読み取りできるようにするんですか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） ウェブ回答につきましては、調査票をお送りさせていただきます。その中にQRコードを表示させていただいておりますので、それを読み込んでいただいて、御回答をお願いするというものでございます。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。

実は今、県もやってますよね、アンケート、御存じですよ。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい。

○委員（松田 勲君） たまたまうちにも来たから同じやなと思って。県の見させていただいた、さっき言われた、3枚入っとなです。さっき大口委員が質問されよった中で、3枚と言われた。3枚入っとなですよ、1世帯に。3枚まで書けますよという形でされてるんです、

裏表でアンケート。それも、QRコードでできるようにもされております。ただ、中身を見たら結構面倒くさいんですね、項目が。同じように赤磐市もされたらお年寄りの方とかは面倒くさいなと思ってやらないんじゃないかなと、正直思うんですよ。

だから、1つは、アンケートをされるのはいいいんだけど、もう少しこういうことを聞きたいからという部分がある程度絞ったアンケートじゃないと、アバウトなアンケートだと分かりにくいんじゃないか。

県のやつは平日と休日かな、何か2日間を書かにゃいけんようになっとんですけど、そういった、例えば交通関係でも聞きたいのが、平日の利用と休日の利用とまた違うと思うんですが、同じようにされるんですか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） まず、岡山県がされているパーソナリティ調査といいますものは、岡山県の中全体で6万8,000世帯を対象にお手紙を送らせていただいております、これも一応無作為ということで。こちらは、松田委員おっしゃられるように、とてもややこしくて、ある一日の行動をどういうふうに動きましたかというのは、平日と休日で書かせるんですけども、私どもで今回させていただくアンケート調査はそこまで事細かく、朝何をしました、晩まで何をしましたというようなことは問いませんが、一応、書いていただく御自身について、日常生活における移動についてどういうふうにならうというような手段が使われてますかというようなことは聞かせていただくようにはしております。おっしゃるように、平日はお買物に行きますとか、通院に行きますとか、休日はちょっと遠出しますとかというぐらいの簡単なところは聞かせていただくようにはしております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） さっき山崎課長が説明されたように、県のほうは、平日のたしか16日と何日かだったと思うんですけど、2日間書くようになっておりました。

だから、平日の使い方と公共交通も確かに休日の使い方というのは違うと思うんですね。それを見たときに、なるほどなとは思ったんです、県のを見たときに、平日と休日は違うよなという部分で、そういったことも配慮をされてるかどうかというのをお聞きしたかったのと、もう一個、さっき言った、もう少し簡単にしないと、書く気になっても途中でやめようかなという気になってくるんで、それやったらあまり意味がないなと思うのと、あと目的がもう少しはっきり分かるようにしないと、せっかく取っても意味がないんじゃないかと、回収率がどのくらい求められてるか分からないんですが、意味がないんじゃないかなと思うんですけど、その辺お聞きしたいのと、あと今、正直いろんなデータを取るのにGPSを利用した調査といったのが結構ありますよね。GPSを岡山市もされてますけど、GPSのデータを購入して、それを基にいろんな施策につなげているっていうのは聞いてるんですけど、そういったことも考

えてはいないんですか、どうでしょうか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 今回のアンケート調査の目的でございますが、もちろん細かい、例えば今回の和気線のようにちょっと延伸をしてみるとか、ダイヤを改正してみるとか、そういう特に現実的なところを考えていくというようなこともありますけれども、今回の大きい一番の目的は、先ほども少し触れたんですけれども、新しい計画を策定していくための根拠資料にしたいというふうに考えておりますので、県のされるパーソントリップは移動実態を把握するというのが実は大きい目的でございますが、私どもが今回させていただくのは皆さんの公共交通、例えばうちでいいますと、バスとかの利用をどういうふうに考えられているかというような意向を聞くような意味合いが大きいというふうなところで、若干県がされるのと違います。あくまでも、令和6年度からの新しい計画の策定に向けて皆様の御意見を聞くというのが一番の大きい目的でございます。

それから、GPSのデータなどの活用を御検討はされないのかということございまして、私どもは岡山県都市圏の中核連携にも加入させていただいております、そちらでいろいろ大きなデータを収集するようなのがありますので、それを共に活用させていただくような動きがあります。市独自でというようなことになると、少しキャパは小さくなってくるので、広域的なデータを活用させていただくような動きにはなってきているところでございます。

以上です。

○委員（松田 勲君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 松田委員。

○委員（松田 勲君） ありがとうございます。

そういった形でやっていただければいいと思うんですけど、せっかくアンケートの時期も一緒ですよ、10月末までです、県も。県がそういうふうにするんだったら、そういったデータも取り寄せることができるんですよ。

○政策推進課長（山崎和枝君） はい。

○委員（松田 勲君） だから、できるんだったら、そういった情報もしっかり参考にしながらされたらいいんじゃないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 県のパーソントリップの結果については、全県下を対象にしておりますので、また結果が出次第、それぞれの市町村にも御提供いただけるということで、しっかりそういうデータも活用して計画策定に向けていきたいと思っております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今話を聞きよったら、何か誤解をしとんじゃねえかと思うんじゃけど、赤磐市は末端行政、県は中間行政じゃし、国との、末端行政とのあれをすることで、考え方、やり方、目的が全く違う。じゃから、同じ時期になるというても、目的が違うもんじゃからどうしようもないんで、県は県、中間行政のあれをつくって国に出さにゃいけんのじゃから、そういうもんでやるのと、赤磐市なんかは末端行政じゃから、市民に関わる一番細かく大事なやり方をやらにゃいけんというのを、誤解をせんように、そういうことに心がけてほしいと思いますんで。

○委員（松田 勲君） いや、見たら分かる。

○委員（下山哲司君） いや、違うんじゃ、あれは、動向調査じゃけ。

○委員長（佐藤 武君） 参考にできるものは大いに参考にさせていただきたいということでよろしくをお願いします。

○委員（保田 守君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） これは、利用する人には物すごく助かるなと思って見たんですけど、早くやりやあええと思うたんです。

いいことばかり、これを読んだらこりゃあ利用する人はでえれえ助かるなと思うて、いいことですけど、メリットはここへずっと書いておられるのは皆そうですけど、デメリットの部分というのは、停留所を変更したら距離が遠くなるとか、何かそういうふうな不都合も時に考えられるんじゃないかと思うんですけど、デメリットというたら別にないのか、もしくは今後これを運行していきよって考えられるデメリットとかというのものもあるんじゃないかなと思うんですけど、そんなのはないんですか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） デメリットというか、若干、金額はさておきまして、2ページ目に停留所の変更を書かせていただいております、延伸するということになると、当然その1路線を運行する時間が若干かかってくるというようなデメリットは出てきます。ですが、周匝から周匝上に始発を延伸するという部分について、1分程度ということですので、JRの接続とか、そういうようなことも考えさせていただきながらダイヤ改正をさせていただきますが、1本の路線で少し時間がかかってくるというようなところは出てくると思います。

○委員（保田 守君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） これは、和気町を参考にして、料金表をつくるに当たっては価格は参考にされたんですか。独自に一応研究してこの価格というのはやられたんですか。



○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 説明がちょっと不足しております、まず赤磐の和気線と広域路線では赤磐・美作線というのがございまして、赤磐・美作線については距離が和気線のほぼ倍で同じぐらいの金額だったりします。それから、先ほども下山委員おっしゃられましたけど、星のふる里バスというのもあるんですが、これも距離が40キロぐらいあるんですが、マックスで380円とかというような金額設定になっていたりしますので、そういった市内で関係する料金設定と、あとは和気町内の料金設定、それから私どもの赤磐市の中での市民バスの料金設定、それらを参考にさせていただいて金額設定を考えさせていただきました。

○委員（保田 守君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 運行会社で契約しとると思うんですけども、そこら辺は見直しなんかとかというのは一切今回しなくてもいいんですか。運行会社の契約期間がいつなのか、書換えがいつかというのが分らないんですけど、そこら辺は再契約みたいなんがあるんですか。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 現在の運行契約につきましては、令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3年間でございます、本年度末に契約期間が切れます。ですので、この前、9月に債務負担行為を議決いただきまして、令和5年度からの3年間の契約をこれから新たに入札等を執行していくようにさせていただきますので、そのときに今回の運行形態の見直しなどの内容も盛り込んだ上で、入札に出させていただく予定にしております。

○委員（保田 守君） 分かりました。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 参考までにお聞きしますが、今日ここに執行部から11人の方が来られてるんですけど、市民バスで来られた方は何人いらっしゃいますか。恐らくおられないと思いますし、ダイヤも10時に間に合うようなダイヤはありません。結局、公共交通で利用されるのは、今さっき出てました通学、高校生かマイカーを持たれてない方がほとんどです。今マイカーを持たれてる方がわざわざマイカーを手放して公共交通を使うということは、ゼロとは言いませんけどほとんどいない。公共交通に頼らないといけないのは、通学の人とマイカーを持ってない方だと思います。私は、桜が丘東4丁目、500世帯ありますけど、車は持たれてない方、正確じゃありませんけど、私が知ってるだけで大体十数世帯、三、四%だと思います。

無作為で3,500世帯出すのもいいんですけど、実際公共交通に頼らないといけない人はほんの数%です。そういった方にアンケートを出さないと意味がない。公共交通に乗らない方に出しても意味がない。それで、今言ったように、乗られますかという問いはできるかもしれませ

んけど、実際に乗られる方、どういったとこに困ってるか、公共交通に頼る人の意見を吸い上げないとアンケートする意味がないと思います。

そのアンケート、今言ってもしょうがないんですけど、この設問の中にマイカーを持たれてますか、ないですか、それは当然入ってるんですね。でも、これはもう委託業者に委託されてるから、今さら設問は変えられないと思いますけど、あわせて実際マイカーを持ってない方の意見を吸い上げる努力をぜひ併せて、今下山委員おっしゃられました、区長さんに聞く、一つの手だと思います。私も福祉推進員でやって大体分かってる範囲で、先ほど言ったように数%です。その方の意見を吸い上げないと、次の公共交通計画、中身のある計画をできない。ただ市民バスを運行しているだけ、誰も乗ってない、こんな状態は変えないといけない。こんだけの事業費、四、五千万円かけてるわけですから、これが本当に有効に生きてくるような公共交通にしないとといけないと思うんで、ぜひその辺、もう一工夫お願いできればと思います。

○委員長（佐藤 武君） 答弁よろしいですか。

答弁されますか。

○政策推進課長（山崎和枝君） 一応意気込みを。

○委員長（佐藤 武君） じゃあ、強い意気込みをお願いします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） 今日は、大変いろんな御意見をいただきましてありがとうございます。

皆様方がおっしゃられますように、まさに公共交通というか、移動手段を持たない方の御意見をしっかり聞くということと、今は車に乗られているけれども、将来的に乗れなくなるように、免許返納されるとかというような方々の意見も併せて聞きたいということもありまして、無作為で流すというような手段は取らせていただいておりますけれども、計画が策定したら全てということでは考えておりませんが、実効性のある計画を策定していくためには、本当に市民の皆様方の意見をしっかり聞く姿勢はあるかと思っておりますので、来年度計画を策定しますので、今回は市民の皆様にごっと流しますけれども、個別の御意見はこれからあと一年かけてしっかり聞いて、より具体性のある、実効性のある計画を策定していきたいと考えております。

またあわせて、いろいろダイヤ等の見直し等が必要な場合は、個別の意見なども参考にしながらしっかり見直しも図っていきたいと考えておりますので、どうぞ皆様よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 公共交通のアンケートに質問が集中してますけど、まだほかにもありますので、ちょっとここで、11時10分まで休憩します。

午前11時1分 休憩

午前11時10分 再開

○委員長（佐藤 武君） それでは、委員会を再開します。

引き続き、質問があればお願いします。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） そしたら、担当課を替えて。

庁舎の整備事業のことが資料にあるんですけど、まずこの結果を見られて担当課としての感想を教えてもらえるじゃろうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 感想というのが。

○委員（大口浩志君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） といいますのが、皆様よく御存じのように、行政においても入札不調があったり、諸物価高騰でなかなか引受手がいないというのは、民間企業も含めてそんな話ばかり。ですけど、なぜ赤磐市だけ低入札ということが起こるのか、その辺についての御感想をお願いします。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 本件に当たりますとは、先ほども説明したとおり、2者が低入札の価格調査に該当したということでございます。資料等も出していただきましたが、直接的な工事に係る経費については不当に価格が下がっていると、労務費等も含めましてそういう状況ではございませんでした。審査資料に基づきまして、そのように判断しております。

今回、参加者は3者ありました。不調等、委員おっしゃられるように、世間では言われておりますが、結果3者の応札があつて、低入札価格の調査を実施しましたが、工事は進めていけるといふふうに思っております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） あまり中身に入らないように、先ほどの一番前段の御説明の中で低入札価格調査をやりましたというような御報告があつたと思いますが、この低入札価格調査の調査委員会メンバーと、それから委員長はどなたでしょうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 低入札価格調査の実際の業務につきましては、まず資料の提出等

を受けた、それから聞き取り調査を行った、こちらは担当課で行っております。担当課長から、市の入札調査委員会、こちらが通常の指名委員会等と同じメンバーとなりますが、各部長、部長級の方々の組織で、会長は副市長でございます。そちらに報告をさせていただき、またそこで御審議いただいた後に決定したというような流れとなっております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） もう市民の方々から、特に私なんかより詳しい建築をお仕事にされとる方なんかから、単純な疑問として、大丈夫なかと、本当にやれるんかと、たしかあえてあったかもしれませんが、どこまでこういうふうにするって説明は委員会ではなされていないと思います。だから、例えば定食で10種類のおかずが出る予定だったのが8種類、7種類になっとなかどうかも分かりませんし、一番基本的なことといえば、本当にこの御時世やれるんですかと、大丈夫なんですかとというのが市民の率直な疑問で、言われても私も返事のしようがないんですけど、その辺については何かいいこういう説明をしてくださいというようなキーワードでもあれば教えてください。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 物価高騰の件に関しましては、従来、生活資材等も含めまして、現在大変叫ばれておる中でございます。この設計につきましては、直近の単価を用いて設計をし、それで発注を行っておりますので、適正な価格で設計を行い、応札があったというふうに考えております。

資材高騰等叫ばれる中でございますので、今後もその辺は注視していく必要があると考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 私は、ざっくり2点の危惧がございます。

1点は、メンバーが替わられとるからいなくなられた方もたくさんおられますけど、まずは公共工事で、滋賀県野洲市の事例は委員会で調査してくれというふうなお願いをしましたけども、要するに耐震改修工事でやる、いざやりかけた、はつてみたらこんなもんで耐震改修しても駄目だということで、最終的にはその建物を潰して新築でやり替えたという事例が滋賀県野洲市にございます。そういう、今、実際にやり始めてからの危惧と、いざ走り出してやっぱりお金が足りませんでした、これだけ補正をください、この部分、この2点を私はすごく危惧しております。いかがでしょうか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） こちらの耐震改修工事につきましては、設計段階それから調査段階におきまして、耐震の審査会、県の審査会等々にも諮って、そこら辺の決定をいただいております。確実に耐震工事で進めていけるものと、改修工事で進めていけるものと、設計どおりでいけると考えております。

それからあと、工事が始まってからの経費増等についてでございます。

これだけの工事でございますので、100%、価格増でありますとか工種増がないというふうにはここでは言い切れないと思っております。ただ、当然予算も考えながらということでございます。確実な工事を可能な限り予算の範囲内でしてまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） 公募があったときのやつで、ちょっと気になっと思ったんじゃけど、5億6,200万円、前にも聞いたけど、この実績を2年間の中でというたら、これは実績がのうても参加できるんか、そういう認識の説明じゃあなかったような気がすんじゃけど。5億6,200万円の仕事をしねえ人には参加資格がないんじゃないんか、公募の仕方だったら。どんなんですか、その辺は。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） こちらは、公告のほうが2項目ございます。

まず、入札の参加要件としましては、建築一式工事を施工した5億6,200万円以上の実績、こちらについて応札ができますという公告要件でございます。

それから、審査につきましては、点数評価、これが評点化しますが、平成19年度以降に公共機関、いわゆる官公庁、国とか県でございますが、こちらが建築一式工事のうち、耐震補強工事の元請施工実績の件数を評価の要件にしているものでございます。

ですから、建築一式工事と5億6,200万円以上のものがまず参加資格の要件にありまして、その上、もし耐震補強工事の元請施工実績があれば、それは評点で加えるというような形になっております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） いや、この3者でいきやあ、三幸と重藤はゼロゼロじゃけん、参加資格がないんじゃないかというて聞きよん。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 株式会社三幸工務店、それから株式会社重藤組につきましても、建築一式工事の実績はございました。そこは確認しております。耐震改修工事の元請施工の実績はなかったということで、ゼロ点となっております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） この3者は、ほんなら5億6,200万円の物件1物件の金額じゃろ、合計じゃなしに。1物件の実績があったということじゃないんか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 建築一式工事の実績はあったということで確認をしております。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） というたら、ゼロ点というのはおかしい、ゼロゼロという。

管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 先ほどから言っている建築一式工事というのは、建築一式工事でございますので、耐震改修工事以外の建築の工事は実績要件としているということでございます。評点化、プラスの加算点にするものは、耐震補強工事の元請施工実績、こちらを評点化して加算しますということでございます。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） でも、この説明を見たら、そういう説明には誰も受け取れんよ。じゃから、ゼロゼロというのがおかしいんじゃが。5億6,200万円の実績があるんなら、同じようになるんじゃねん。書いてねえが、耐震のやこうというて。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 下山委員が言われるのは、5億6,200万円の建築の実績がある者が応札資格があります。それとは別に、それぞれの技術力を評価するという上で、総合評価の、要綱の中に細かく評価の項目を書いております。そのところに、同種工事ということに関しましては、耐震補強工事に限定して実績があるものは提出してくださいということになっております。応札者については、建築一式工事、当然、新築工事でも何でも大丈夫なんですけど、建築一式工事の5億6,200万円の実績があること。ただ、この場合の総合評価で評価する

評点としては、耐震補強工事の実績が5億6,200万円以上のものが何件あるかというところで評価をさせていただいております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 荒木はほんなら耐震だけの1件じゃろ、これは、1件の金額じゃろ。

○委員長（佐藤 武君） 2件でしょう、2じゃから。違うんですか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） こちらの評点につきましては、配点が4点となっておりますが、もし3件以上あれば4点、2件であれば2点、1件であればゼロ点と、ゼロ件もそうですが、という配点の方法となっております。ですから、荒木組に関しましては、2件対象の同種工事があったということでございます。

以上です。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 一番危惧するのは、この3者を見て、本当だったらもっとたくさんの、6者も7者も応札があって当たり前なんじゃろうけど、この3者だけで、このレベルでやるんかと思うたら情けねえ感じがするんじゃけど、それについてどう思われますか。

○管財課長（大窄暢毅君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 大窄課長。

○管財課長（大窄暢毅君） 3者の応札ということでございます。本件、先ほどからもいろいろお話も出ております物価高騰とか、それから業者の手持ちの工事、その辺の工事状況とかもあろうと思います。結果、3者となって、荒木組が落札されたという結果だと認識しております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 荒木組が通るとするのは、もうここは耐震をやるというたときから名前が上がって、荒木じゃというて決まっとったように聞いとんじゃけど。

○委員長（佐藤 武君） それはやめましょう、そりゃあ。

○委員（下山哲司君） いやいや、事実じゃから。

○委員長（佐藤 武君） 事実なんですか。委員会ですから。

○委員（下山哲司君） 何でかというたら、前にも言うたことがあるんじゃけど、こういう改修、新たにやり替えるのは別として、業者間で全工事者がやるというのが大手の中の申合せ事項みたいなもんがあって、その当時に大手でやられとる者は手を出さんと。じゃけど、その後

に大きゅうなった会社が、そういうあれがねえ者は手を出すというのが習わしなんじゃけど、じゃけど何でそういうことを言うかというたら、赤磐市やこう取り合えんというようなうわさを何回も聞いとるから、じゃからそれが情けねえから言よんで、そういう話題が出んのなら何も言やあせんじゃけど、そういう話題が出んようにやってもらわんと、どういうことをやりよんならという話になるから聞きよんで、別にやることがええとか悪いとかというんじゃなしに、そういう問題を世間に出されんような方向できちっとやってもらいてえというだけの話で言よんで、別に市長がやるというたらそれで大統領制じゃけでできるんじゃけど、そういうことが言われんようにやっていたきてえというだけで言よるだけで、やめますけど。

○委員長（佐藤 武君） 公式の委員会ですので、そういう臆測というか、出来レースというか、そういう発言は不相当だと思うんですが、記録として残しますか。

○委員（下山哲司君） 残しといてください。

○委員長（佐藤 武君） それで、私の今判断なんですけど、下山委員からも指摘があったように、資料の2ページの部分で一番上の同種工事というのが、この後に（耐震補強）というような文言を付け加えることは間違いではないのでしょうか。より正確にお知らせするために、この（耐震補強）というものを入れるのはどんなでしょうか。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 正式に公告にうちがうたっているものがないかと思うので、ちょっと時間をいただけたら、すぐ公告の内容でそこへ括弧入れをさせてもらおうと思います。

○委員長（佐藤 武君） そういうことで、資料をより適切に表現していただきたいと思います。金額も含めて訂正をお願いしたいと思います。

ほかにありますか。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 電卓があればたたけばすぐ分かるんですけど、教えていただけたら。

加算点の合計が15点と12点、1番、2番がなってますけど、例えば2番の加算点が13点だったら、これの結果は引っかかるような計算式になるんですか、どうなんでしょう。

○委員長（佐藤 武君） 加算点。架空の設定をしてもしょうがないからね、これは。どうしましよう。架空の指摘なんですけど、お答えになりますか。あくまでその結果と評価値というものをを出していただいているんで、これ以上のことを答弁するかどうかなんですけど。総合的に評価をして、結果がこうこういう事実なんで。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 僕の手元には電卓がありますので、今申されたとおり、13点になった場合、その評価値のところにある100点足す13点を13.474億円で割りますと、8.386にな



ります。あくまでこれは架空の数字ですので、あくまで計算値です。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

ほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、事業の進捗状況、ほかにもありますが、ほかについてはよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） それでは、事業の進捗状況についてはこれで質問を終了いたします。

続いて、2番目、その他に入ります。

その他について、執行部から説明があればお願いいたします。

○政策推進課長（山崎和枝君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 山崎課長。

○政策推進課長（山崎和枝君） その他として、政策推進課から2件御説明させていただきたいと思います。

まずは、(1)地球史研究所5周年記念イベントについてということで、4ページと5ページにチラシをつけさせていただいております。

4ページですが、10月15日土曜日に地球史研究所の研究棟、周匝にございます、そちらでイベントをさせていただきます。

それから、5ページは、10月23日日曜日で、赤磐市立中央公民館2階大集会室で、こちらは少し本格的な内容で、建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラムを3単位取得できるような内容にもなっております。一般の方も御聴講は可能ということで、せっかくの機会ですので御案内させていただきました。

続いて、(2)でございまして、資料はございません。

電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金についてでございまして、こちらは一般会計補正予算につきました。ただいま準備を進めておりまして、議会とも調整をさせていただいております。

内容といたしましては、先月国から内示のありました、先ほどの表題の交付金を活用いたしまして、医療・介護・保育事業者や農畜産事業者などに対する物価高騰対策支援事業を実施したいと考えております。

当方で関係いたしますのが、9月の議会におきまして、新型コロナウイルス感染症や原油高騰の影響を受けている公共交通事業者、市内のタクシー事業者に対する支援の事業について御承認をいただいておりますが、別途、地域交通という広い範囲で考えさせていただきまして、福祉タクシー等の事業者に対する支援金の交付を予定させていただいております。

簡単ですが、以上でございます。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） それでは、総務部資料の1ページを御覧ください。

その他といたしまして、くらし安全課から、令和4年秋の交通安全県民運動、この出発式ですが、去る9月21日に赤磐市中央図書館で開催いたしました。委員長をはじめ、議員の方にも御出席いただきまして、ありがとうございます。約80人の参加がありました。

2ページに参りまして、8月末時点ではありますが、交通事故の発生状況でございます。

こちらですが、総件数、昨年と同時期と比べてやや増加傾向にございます。人身事故については、微減という状況でございます。

2としまして、赤磐市総合防災訓練についてでございます。

令和4年11月20日午前中ですが、吉井中学校を会場といたしまして、総合防災訓練の実施をさせていただきます、議員の皆様方には、改めて参観の御案内をさせていただきますので、こちらについても時間の許す限り御覧いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

以上です。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 檜原課長。

○消防総務課長兼通信指令室長（檜原秀幸君） その他についてでございます。

消防本部資料4ページを御覧ください。

予防課からは、令和4年度秋季火災予防運動行事についてでございます。

11月9日から秋の火災予防運動が実施され、31事業を計画し、イベント型の広報や出前講座、防災に重点を置いたものまで、多様な広報に趣向を凝らし、展開してまいります。

続きまして、救急活動中における物損事故の報告でございます。

発生日時は、令和4年9月27日火曜日昼の12時5分頃でございます。発生場所と内容は、赤磐市吉原地内において、東救急隊が傷病者宅の庭先で設置してあった散水用蛇口の根元の塩化ビニール配管を足で踏んで破損させたものでございます。搬送に際して、水が噴出したままでは病院に向かい出発できないので、元栓にて止水の後、病院に搬送したものでございます。また、止水されたままでは御家族の日常生活に支障を来しますので、早急に水道業者を手配し、修理をしたものでございます。4ページに写真を添付しております。

最後に、あかいわeco・いいものまるしえ消防フェスの開催について御紹介いたします。

令和4年11月6日日曜日10時から14時の間、赤磐市環境センターと赤磐市消防署を会場に開催いたします。主催は、環境課、商工観光課、消防署です。感染防止に十分配慮しながら、規模と時間を短縮し実施したいと思いますので、何とぞ御理解のほどよろしくお願ひいたします。パンフレットを添付しておりますので、後ほど御覧ください。

以上でございます。

○委員長（佐藤 武君） ありがとうございます。

執行部の説明が終わりました。

ただいまの説明について委員さんから質問があればお願いします。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 赤磐市の総合防災訓練なんですけど、大体今の予定では何人規模ぐらいでやられようとしているんでしょうか。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 前回、平成29年なんですけど、約400人程度でございましたが、新型コロナウイルスということもございますので、少し参加人数を絞りまして、300名程度の参加規模と考えております。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） ほかにありますか。

ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） ほかに委員さんから質問がありませんが、当局のほうも特にございませんね。

○財務部長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 戸川部長。

○財務部長（戸川邦彦君） 先ほどの資料の訂正になります。

財務部資料の2ページの初めの同種工事と記載されている項目になります。

こちらが、業者へ公告させていただいた内容においては、建設一式工事のうち、耐震補強工事の元請施工実績ということで書かせていただいております。なので、耐震補強工事であることは間違いないです。

以上です。

○委員長（佐藤 武君） これは、直すんですか、それともここで口頭での説明と。

○財務部長（戸川邦彦君） 資料としては金額も併せて修正させていただきます。よろしくお願いします。

○委員長（佐藤 武君） それじゃあ、申し訳ないですが、修正した分をまた委員のボックスに配っていただいてもよろしいですか。

○委員（大口浩志君） 議案で出るんじゃから議案のときでええんじゃねんですか。

○委員長（佐藤 武君） 皆さん、それでよろしいか。

それじゃあそういうことで、次回何か配るときにお願いします。

ほかにありますか、当局のほう。

なければ。

よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（佐藤 武君） 事務局もよろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 最近山陽でいろいろ話を、うわさ話というたら失礼かもしれんけど、私は吉井地域じゃから吉井の受付へ行っていろいろお願いするんじゃけど、対応し切れんのじゃな、受付へおられる方が。じゃから、そのたびに本庁へ聞いてやる。

それは、何でそういうことを言うかというたら、私の場合はええんですよ、地元の間、地元の議員じゃからええんじゃけど、よその業者さんが、司法書士さんとか行政書士さんとか、いろいろそういう資格を持った人がいろんな書類、車のや何でももらいに来るわけですよ。そしたら、よその3倍ぐれえ時間がかかると言う、紙1枚をもらうのに。

というので、きちっとした責任者がおらんのか、それとも吉井じゃから誰でもええから座らしときゃええんじゃというぐれえに思うて人員配置をやりよんか。前にも言うたことがあるんじゃけど、しっかり研修をしていただいて、それで適材適所の配置をやっていたきたいというふうにする。よその業者の人にそんなことを言われたら風が悪うて、議員として。結構そういう関係の人、ようけ知り合いがおるから、会うたときに下山さんこうこうじゃというような話ばっかし聞くんで、そのレベルじゃあ末端行政の役所の受付事務。

前にも僕が、周匝の人が、名前は言わんけど、鉄骨の2階建てを建てた。そしたら、本庁の受付が県へ確認申請を出してくれえと言う。200平米以下は要らんということを知らんのよ、受付しょうる人が。ほいで、僕に言うてきたわけじゃ。何とこうこうで、確認申請を取りに行けと言うて、どの大きさと言うたら、今うちの前、コンクリを打つとるあの大きさじゃったら200平米もなからうと言うて、上下合わせても200平米もなからうと言うたら、ねえと言うて。それを県へ確認申請を取りに行けえやこ言うて指示しちやいけんよ。

そういうのが度々あるから、県へ行ったらどねんすんじゃろうかと思う。僕に聞いたからよかった。県へその人が行ったら、赤磐市が確認申請を取ってけえと言うたんじゃけ図面を持っていったら笑われるで、県に、そんな指示をしようたら。そういうことが今現実に多々起きとるわけです、赤磐市の受付で。

そういうことじゃなしに、きちっと対応できる者を1人置いとかんと、それから相手に指示するときは確認をきちっとして、書類を見りゃあすぐ分かる話。じゃから、そういうことを言うこと自体が大変行政として失態やというふうには思うとんで。

それから、もう一つ余分なことを言わせてもらっただけじゃけど、そういうことで、できん人を行かすから、わしはそういう仕事はできんわと言うて辞めるといような人が何か多々あるんじゃないかという話を聞いとんじゃけど、そういう実態があるんかな、現実に。今日ここへおられてる総務部長の仕事の範囲かな。

○委員長（佐藤 武君） 今日支所長がおられませんけれども、総務部長のほうから。

○総務部長（入矢五和夫君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 入矢部長。

○総務部長（入矢五和夫君） いろいろと御意見ありがとうございます。

支所の人員配置につきましては、当然、今さっき言われたような方を行かすとか、そういうことはございません。全体の異動の中で考えております。

今さっきも、知識が不足しているというふうなお話もございました。当然、窓口が中心になって、分からないことは本庁に確認させていただいて確実な事務を進めたいけれども、分らないことあります、最低限の知識、窓口としての知識というのは必要だと思いますので、そこらあたりはしっかり習得をするように努めさせていただきます。よろしく願いいたします。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 最低限じゃあ困るんですよ。来られる人は、その地区にお客さんがおったらよそから来て商売で皆そういう書類を取りに来られたりするんで、それがこうこうと言うて、僕がおったときでも隣に来とった人がかなりてこずられよった。何でそんなことに手間が要るんならというふうな表現ですわ、その人はあちこち行くわけじゃから、役所へ。だから、スムーズにできるもんが、私も1万8,000円ほど手数料を払うたやつ、行政書士と一緒にいって対応したんじゃけど、2時間かかった、2時間。4時頃じゃったから、行ったんが、そんな30分あったらできようというて言ったら、2時間かかって、僕は5時を過ぎたから、途中で日を変えてくれえと言われるんかと思うたら、再任用の人が、それはてっちゃん大丈夫、受付をしたら時間が来ても全部してくれるからと、こういうふうな話なんよな。じゃから、それはしてくれるのはええんじゃけど、行政書士というのには30分あったらできるじゃろと言うから、2時間かかった。

じゃから、その辺が、1人はきちっとできる者を置いておいていただかんと、吉井支所という看板がかかるとるわけじゃから、恥ずかしいんじゃねえかなと思う。

あんだけおる中で、できる人がおったらサポートするとかというふうなシステムはないんか。できん人に無理に受付をさせんでも、ほんなら難しいと思うたら、支所へおる中でできる人がおったらサポートするということはできんの、所管が違ったら。その辺を聞かせて。

○総務部長（入矢五和夫君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 入矢部長。

○総務部長（入矢五和夫君） 大変申し訳ございません。

最低限というのは、必要な、当然支所ですから人数が少なくても、業務も広がります。なんで、深堀りができない部分もありますけれども、必要なものは知識として持っておくというのはさせていただかんといけんというふうに思います。

また、サポート、上司や近くに詳しい者がおったら、そういうのは、それだけの少ない人数でやっとするんで、しっかり助け合って、分からんことはほかの者でもするようにしたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

○委員長（佐藤 武君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） そういう対応をしてくれようように思えんのかな。必ず本庁へ電話するんじゃ。じゃから、支所で限られた人数でやりよんじゃったら、そういうこともサポートしちやれという上からの指示がなかったら、隣の課に手を突っ込む者はおらんがな、常識から言うて。じゃから、その辺の考え方がもう少し。

じゃから、表現が悪いけど、合併してから何か役所の力が物すごく落ちたように思う。僕は吉井で15年議員をさせてもろうとるけど、それ以前は仕事でずっと出入りしよったけど、できばきしてくれよった。最近、全く決断力はない、やってくれようことが前へ進まん。

じゃから、いろんな面でもう方向を変えとんじゃけど、今こういうことがありますというて調査したりするのをお願いすることもあるんじゃけど、本来は議員活動に支障を来すような部分もあるような気がするんよな。じゃから、赤磐市の議員はどこまで活動すればええんか、それも今分からんようになってるし。じゃから、もう方向を変えて、国会議員とか県会議員とか、そういう有力の行政関係の者にあれするか、弁護士に相談するかというような物の考え方を今しとんじゃけど、どうも職員に言うたら、もう県にはなめられとんですとと言う、そういう回答が来るん。県に言うてくれとんと聞いたら、どうも僕が言うたんじゃなかなか動いてくれんのですとと言う。ほんで、しょうがねえから県会議員に、なめられちゃおえんがなとと言うたら、すぐ連絡が来るん。

じゃから、やらにやいけんことは、やると言うて約束しとることが、もう3か月も4か月も放りっ放しやという、多々あるんじゃな。だけど、末端行政として、県の手先もしょうるわけじゃから、ただその辺をきちっとすみ分けをしてやってもらわんと、最近は全く駄目な気がする。できようらんよ。

じゃから、できん人に無理やり仕事を押しつけて、わしゃあ役所を辞めようかというようなことが起きんように、今日は市長、副市長はおらんからあれじゃけど、またおるときに、一般質問12月にするかもしれんし、もうちょっとそういう面をしっかりと総務部長、責任者としてやってもらいたい。お願いしてやめます。

○総務部長（入矢五和夫君） 分かりました。

○委員長（佐藤 武君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 今の関連で、下山委員はネガティブな情報の提供をいただいたと思うんですけど、こんな空気では寂しいものがありますんで、私は赤磐市の職員さんはようやってくれたと、さっき言われるように、介護事業者で他市町村も回りようられる方が、赤磐市の説明が一番丁寧にしてもろうたから助かりましたと言っていただけでもおられますので、御参考までにということ。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 時間がないので1点だけ確認させてください。

岡本課長、6月議会で戸別受信機の配布がありましたけど、これはいつから始められるんでしょうか。

それともう一点、要支援者ですけど、これはいつ更新されてるんでしょうか。実は私は該当するはずなんですけど、どの部署がそれをされてるんでしょうか。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 11月の広報、10月の終わり頃に配布させていただく広報に要支援者のことについては記事として載せさせていただきます。大体このぐらいの時期に新たに対象者となった方には案内をさせていただいて、申請をしていただくというような流れになっております。当然、新たにじゃなくて、以前に対象になった方が、その時点では申請してないけれども、その後いろいろ状況が変わって申請したいという方がいらっしゃれば、その方についても改めて申請していただければ登録できることとなります。その御案内は、次号の広報でさせていただきます。

戸別受信機の配布でございますが、先般議決をいただきまして、すぐ発注の手続きを取っておりますが、何分この御時世でなかなか納品までに時間がかかるということで、年度末ぎりぎりになるんじゃないかということで、配布自体は年度を越してからということになるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 質問させてもらいましたけど、要支援者というのはその中で開示に同意されてる方ですよ、1,500世帯というのは。だけど、まだ元気だから、災害時に自分でちゃんと避難できるから支援は要りませんよ、だけど防災無線が聞きにくいからそれは欲しいねという方はおられると思うんです。その辺は、300台が残ったらそちらにも回しますよというふうな対応なんです。その辺が、趣旨が違うのをくっつけちゃってるからいかがかと思って、その辺どうされるんでしょう。

○委員長（佐藤 武君） 岡本課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 今回の配布対象は、あくまでも要支援者名簿に登録された

方ということで限定させていただいております。おっしゃるように、仮にですが、300台の配付が200台で止まって100台余ったという現状があったとしても、今回の配布に関しては避難に関して支援が必要な方ということで、そういうことの趣旨で対象を絞らせていただいておりますので、余った、即対象を広げると、その後この議会等に御相談をさせていただきながら、枠を広げて少しでも聞きにくい方に広げたほうがいいんじゃないかという御意見がございましたら、対応を検討することはやぶさかではありませんが、現段階では対象は限定させていただきたいと考えております。

○副委員長（安藤利博君） 委員長。

○委員長（佐藤 武君） 安藤副委員長。

○副委員長（安藤利博君） 要するに、要支援者の3,200世帯じゃなくて、その中で開示に同意されてる1,500世帯が対象ということですね。

それともう一点、私が対象ですと言った、あれは1人世帯じゃないですよ、75歳以上の、2人とも、要支援者、対象者は、両方とも75歳以上の世帯ですよ。

○委員長（佐藤 武君） 年齢対象。

○副委員長（安藤利博君） 対象者は高齢者世帯だと思います。

○くらし安全課長（岡本和典君） 1人世帯とは限っておりません。

○副委員長（安藤利博君） だから、私は入るんです。

○委員長（佐藤 武君） よろしいですか。

○副委員長（安藤利博君） だから、支援は要らんけど、防災無線は欲しい。

○委員長（佐藤 武君） 先ほどの職員の対応については、職員さん自身が一番勉強していただくというのが一番ですけれども、職場を通じて指導研修もぜひともお願いしたいと思います。市民のための公務員ですので、ぜひともよろしくお願いしたいと思います。

それでは、ほかに特にありませんので、以上をもちまして総務常任委員会を閉会したいと思います。

なお、次回の委員会ですけれども、11月15日火曜日、時間に変則なんですけれども、13時30分から予定させていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上で閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

午前11時57分 閉会